

# 予算決算福祉文教小委員会審査報告

令和7年3月17日

予算決算常任委員長 石川 信雄 様

福祉文教小委員長 瀧野 良枝

本小委員会に付託された事件にかかる審査内容及び主な質疑、意見等について、次のとおり報告します。

## 記

事件の番号	付 記 内 容
議案第31号	令和7年度飯綱町一般会計予算中、 民生費、衛生費、労働費（シルバー人材センター運営事業） 教育費及び関係歳入

## 第3款 民生費

### □保健福祉課

質疑①：買い物支援事業（DX推進）について、その目的と効果は。

回答①：認知症ではないが、外出困難な要介護者の買い物を遠隔で支援するシステムで数名の利用がある状況。ある程度介護度が上がると機器の操作も困難となってくることから、事業所を通じこのシステムを体験していただく中で利用者と社会をつなげていけたらと考える。

質疑②：移動支援事業と輸送サービス事業について、障害等の程度に関係なく広くカバーできるか。

回答②：移動支援はヘルパーによる付き添いの支援、輸送サービスについては運輸局の許可を得て社協とSUNで行っているが、どちらにしても「人」がいないと成り立たない事業であり、需要と供給のバランスからも人材不足と言われるなかで手を広げられない状況にあると感じる。

質疑③：現在、設立準備が進められている特定地域づくり事業協同組合との連携は考えられるか。

回答③：地域として支えていく方向で、福祉として協力できる部分は連携を図ってい

きたいと考える。

#### □住民環境課

質 疑： なし

#### □教育委員会

質疑①：子ども基本法に基づく町の子ども計画の策定が義務付けられているが、その対応は。

回答①：現在、第2期飯綱町子ども子育て支援事業計画を実施中で、令和7年度からの第3期計画を作成している。

質疑②：保育園の会計年度任用職員と正規職員の数は。

回答②：保育士は正規職員28名（内5名育休・休職）、会計年度任用職員41名（内さみずっ子16名、りんごっ子14名、南部11名）

質疑③：フリースクール2箇所への団体等負担金について適正の使用の検証は。

回答③：負担金額は国の定めた基準で算出された額。適正な支給額であるかはチェックしているが、何に使用されているか内容まではチェックしていない。

質疑④：団体等負担金のチェックや監査はどこがしているのか。

回答④：長野保健福祉事務所が行政事務調査を行い定期的にチェックしている。

質疑⑤：加配保育士の人数は。

回答⑤：16名（内 南部7名、りんごっ子5名、さみずっ子4名）

質疑⑥：子育て世帯訪問支援派遣事業の令和6年度利用者の声は。

回答⑥：4～5組の利用があり、約2か月間、産後の利用者がほとんどである。アンケート調査はしていないが、支援員を通して「たいへん助かる」「来てもらってよかった」という声をいただいている。健康管理センターや保健師から制度を紹介されたというケースもある。

質疑⑦：飯綱町の学童保育の現況は。

回答⑦：児童クラブは三水・赤塩・牟礼・南部の4箇所。利用者は増えている。今年度の登録者は249人、利用者はクラブによって差はあるが赤塩は10人程度、三水・牟礼・南部は20～40人で月の平均利用者は28人程度。

## 第4款 衛生費

#### □保健福祉課

質疑①：がん患者へのアピアランスケア助成事業は、ウィッグ等購入への助成か。

回答①：お見込のとおり。

質疑②：精神保健普及費について、ひきこもり対策は該当しないのか。

回答②：事業自体は福祉系の重層的支援の中で実施している、訪問する中でひきこもりに該当となる方もいるため、保健師として関わっている。

#### □住民環境課

質疑①：猫繁殖制限補助金について、陳情書で長野市にならって手厚く補助金を交付してほしいと要望があったが、どのように対応してきたか。

回答①：補助金額は長野市の金額までとはなっていないが、長野市以外の近隣市町村や県下市町村の補助金額をベースに設定している。令和6年度の補助実績は去勢手術16頭、不妊手術27頭。住民等からの補助金額等の増額に係る意見・要望はない。引き続き近隣市町村等の動向に注視し、申請者の意見・要望も聞きながら事業を進めていきたい。

質疑②：太陽光発電システム及び蓄電システム設置費補助金について令和6年度に減額補正しているが、災害対策としても発電システム等の導入は重要なことである。周知の仕方や住民の理解度はどうなっているか。また、予算計上の際にどのように検討したか。

回答②：再生可能エネルギーの普及促進や災害対策として有用であることも含めて、発電システム等の導入を推進しており、それを踏まえた予算を計上している。周知方法については「iなびいいづな」やホームページ、広報誌等あらゆる媒体で行っている。補助制度は住民よりも施工業者の方がより関心が高く、問い合わせや相談等も多く寄せられている。増改築等、必要に応じて業者から住民に説明や提案がされており、住民の理解は高いと思われる。

### 第5款 労働費（シルバー人材センター運営事業）

#### □保健福祉課

質 疑：なし

### 第10款 教育費

#### □教育委員会

質疑①：GIGAスクール端末更新は小中学校とも同一機種か。

回答①：小学校はiPad、中学校はChromebook。Chromebookは長野市と同様で、教育環境を揃えたい意図がある。

質疑②：小中学校の管理費で支援員と介助員の違いは。また加配の状況は。

回答②：支援員は教員免許を有する者、介助員は学習支援ではなく支援学級の子などへの医療的ケア、生活上の介助支援で資格有無を問わない。加配は公務技手

まで含め牟礼小10名、三水小8名、中学校7名を予定している。

質疑③：過去、就学前児童の保護者に対し、入学後は特別支援を受けることを勧めたが理解が得られないケースがあった。現在でもそうした傾向はあるのか。

回答③：飯綱町はインクルーシブ教育を進め、すべての子どもが多様性を認め合い、ともに学びあうことの実現を目指している。支援のかたちはケースバイケースであり、保護者の意向も尊重しながら理解が得られるよう対応している。

質疑④：誰しも色合いが違うだけでそれぞれ特性を持っている。障がいが特殊ではないということを保護者へ理解してもらうため、教育委員会の取組は。

回答④：インクルーシブ教育は支援が必要な子のためだけでなく、いわゆる健常といわれる子にとっても、個性のある子と一緒に過ごすことで人権感覚を養うことができ、多様性を認め助け合う気持ちがうまれる。子どもたちは偏見がなくなり、そうした子が大人になる。そういった環境づくりなどに配慮している。若い世代はそうして人権感覚が磨かれインクルーシブな社会になる。

質疑⑤：発達障がい・自閉症スペクトラムの人数は増えているのか。

回答⑤：増えている。原因は社会的認知、医学の進歩、生きづらい社会環境などが考えられる。

質疑⑥：自閉症スペクトラムと発達障がいの違いは。

回答⑥：自閉症スペクトラムは発達障がいの一つである。

質疑⑦：地産地消推進で町内産コシヒカリを買うとあるが、米価格が高くなっている。町内産米の見通しは。

回答⑦：令和6年度は10kg4,050円。令和7年度は上昇を見込んで計算している。有機米も同様に上昇を見込んでいる。

質疑⑧：給食無償化がいわゆる昨今だが町の今後の見通しは。

回答⑧：飯綱町は現在半額としている。給食は本来、法に基づき国が行うべき事業だと考えるが自治体による差異が出ている現状がある。できるだけ保護者負担が生じないように補助を考えていきたい。

質疑⑨：現在の米の納入業者数は。

回答⑨：3者（1者は農協、2者は農家）である。

## 歳入

質 疑：なし

以上